

【 全 体 的 な 計 画 】 奈良教育大学附属幼保連携型認定こども園

こども園の理念	○持続可能な開発のための教育(ESD)の推進拠点である奈良教育大学と連携しながら、「予測不可能な未来を生き抜き、仲間とともに新たな価値を創造できる持続可能な社会の担い手となる子ども」を育成する。 ○主体的・対話的な教育・保育活動を基盤として、一人一人の子どもの資質・能力が十分に発揮できる環境を整え、子どもを「自ら育とうとする存在」にして捉え、子どもをレスベクトし「子どもの横に並び、子どもと保育者が共に創り出す教育・保育」の実践を図る。	教育・保育目標	【地球の中で】持続可能な未来に向けて、保育者とともに考え、行動する子ども ↑ 【自分から】主体的に行動してなじみの世界を広げ、自分でやったという充実感を感じながら生活する子ども 【創造する】試行錯誤を繰り返しながら探究し、新しいものや自分なりの考え、方法を創造し表現する子ども 【人とともに】ありのままをわかりあい、分かちあい、活かしあう子ども
----------------	--	----------------	--

		0歳児	1歳児	2歳児	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児
子どもの姿		特定の大人との安定した関係の中で、体の動きや泣き声、喃語等で自分の欲求を伝えようとする。食事の時間、睡眠の時間が次第にそらひ、それぞれの子どもの生活リズムができる。寝返り、座る、這う、立つ等体を動かすことが楽しくなる。	遊びや生活のリズムが整ってきて、遊びの時間が充実してくる。午睡が1回となる。食事や着替えなど、生活の中で毎日行うことを「自分でしたい」と自己主張するようになる。身の回りのものやことに興味関心(好奇心)をもってかかわろうとする。	食事や睡眠、排泄や着替えなど自分でできるようになっていく。身近な環境に動きかけて遊びこむようになる。クラスの保育者や友だちなど身近な人のかかわりを喜ぶようになる。	はじめての集団生活を経験する子どもが多い。家庭以外の場でも安心して過ごすようになり、身近な環境に動きかけて遊びこむようになる。クラスの保育者や友だちなど身近な人のかかわりを喜ぶようになる。	進級児と新入児があり、進級入園当初は経験の差が大きい。クラスの友だちと遊びや生活の場を共有する中で、気持ちも共有し、かかわりが増え、友だちと一緒に遊んだり生活したりすることを楽しむようになる。	自分のしたい遊びを存分に楽しみ、目的をもって考えたり工夫したりするようになる。いろいろな友だちのかかわりの中で自分の思いを表現したり、様々な思いに触れたりしながら自分で遊びを進める楽しさを感じるようになる。	クラスの友だちのことが互いにわかり、話し合ったり、協力したりしながら自分で遊びや生活を進めていくことを楽しむことができるようになる。一つの目標に向かって、協力しあい、充実感や達成感を味わうようになる。

年間のねらい	養護	生命の保持 ○生理的欲求を満たし、安定した生活リズムをつくり、快適に生活できるようにする。	情緒の安定 ○応答的なかかわりの中で安心して過ごすことができるようにする。	地球の中で	【 世界を広げる 】 【 つながりに気づく 】 【 参加・参画 】				
	教育・保育	自分から ○身近な環境に興味、関心を持ち、主体的にかかわる。 ○生活や遊びの中で出会う様々な事に親しみ、楽しんで取り組む。	創造する ○ものごとの性質や仕組みに気付く。 ○自分の身体や外界に興味関心をもち、不思議に思う。	人とともに ○特定の保育者に、愛着や信頼感をもつ。 ○表情や動きで人と気持ちを伝えようとする。	○安定感をもって、行動する。 ○自分のやりたいことに向かって伸び伸びと取り組む。	○身の回りのことを自分でやりたいと思う ○自分のやりたいことに向かって遊び込む	○生活に見通しをもって行動する。 ○自信をもって行動する。	○自分で考え、自分で行動する。 ○自分らしさを大切に作る。	○自分の行動に責任をもつ。 ○自分の感情や行動を統制する。
	興味・関心	○興味関心をもって様々な環境(ひと・もの・こと)にかかわる							
	安心・安定	○園にかかわるすべての人が多様なままに受け入れられ大切にされて過ごす							
	安全・健康	○生理的欲求が、十分に満たされる ○のびのびと体を動かし、さまざまな運動を楽しむ ○保育者とともに病気の予防や基本的な生活習慣の形成に取り組み、健康に気をつけて過ごす ○危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、保育者とともに安全に気をつけて行動する ○自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる							

内容	健康	※左記0歳児の3つの視点と右記5領域はセルの区分通りに対応はしていない	・生理的欲求を適切に満たされ、安定感をもって生活する。 ・食事や着替えなど、生活の中で毎日の繰り返しを経験する。 ・午睡や排泄などの生活のリズムが安定する。 ・歩く、走る、上る、下りる、またぐなど自分で行動できる喜びを感じる。 ・様々な食品や調理形態に慣れ、食べることを楽しむ。	・健康な生活のリズムを身に付ける。 ・戸外での遊びの楽しさに気持ちよく、進んで戸外へ出ようとする。 ・保育者や友だちと食べ物を一緒に楽しむ。食べ物への興味や関心をもつ。 ・身の回りの清潔を保つ習慣が少しずつ身につく。 ・自分から体を動かすことを楽しむ。走る、跳ぶ、バランスをとる等、様々な動きをする。 ・便器での排泄にも慣れる。	・保育者や友だちと触れ合い、安定感をもって行動する。 ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ・身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などを自分でしようとする。 ・進んで戸外で遊び、様々な動きを楽しみ、自分のイメージした通りに身体を動かす喜びを知る。	・登園の準備から降園まで、園生活を自分たちで進めていく。 ・新しいことに挑戦し、充実感や満足感を味わう。 ・危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する。 ・基本的な生活習慣を身に付け、自分でできたことに自信をもつ。 ・園にある様々な道具や用具の使い方がわかり、自分から体を動かして遊ぶ。	・互いに声を掛け合いながら園生活を進めていく。 ・自分の情動や欲求を制御する力が芽生える。 ・体の使い方が難しい遊びにも諦めず繰り返して挑戦する。 ・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。
	人間関係	・愛情豊かな応答的なかかわりの中で、安定感をもって過ごす。 ・保育者や他児と一緒に過ごすことに心地よさを感じる。 ・特定の保育者に対して愛着を形成し、自己を肯定する気持ちの芽生えが生じる。	・保育者や友だちと一緒に活動する心地よさを感じる。 ・友だちや保育者と簡単なやりとりをしながら一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・自分の気持ちを伝え、相手の気持ちに気付く。 ・保育者や友だち、年長児などがしていることを真似たり、簡単なごっこ遊びを楽しんだりする。□	・自分や他者よきよに気付き、一緒に活動する楽しさを感じる。 ・友だちと喜びを悲しみを共有し合う。 ・生活習慣や片付け、順番などの簡単なままりやルールを知った動こうとする。 ・自分でできることは自分でしようとする。 ・同じものを友だちと共有して使う。 ・地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。	・友だちと一緒に遊べる満足感や達成感を味わう。 ・友だちとのかかわる中で、イメージや思いを共有し、共通の目的を見いだす。 ・友だちと遊びの場や遊びに必要なものを作り、自分で考えたことを実現していくくらしを味わう。 ・しまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ・学級の中で、お互いの思いを主張し合い、折り合いをつける。 ・決まりを守って生活することの心地よさを覚える。 ・道具や用具を大切に、賢く使う。 ・地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。		
	環境	・探索活動を通して、感覚の働きを豊かにする。 ・園にある玩具やその他の道具に興味をもち、それらを使って繰り返し遊ぶ。 ・園庭の動物や植物、自然に気付き、見たり、聞いたり、触ったり、嗅いだりして楽しむ。 ・季節の移り変わりを感じる。	・身近な生き物や植物などの自然物を見たり、触れたり、使ったりする。 ・自分のものと他者のものの区別がつかず、片付けの場所がわかり、環境を整える感覚が育つ。 ・園全体を使って遊び、場所的感覚が育つ。 ・様々な園にある道具や用具を使って遊ぶ。 ・形や色、大きさ、量など、物の性質や仕組みに気付く。 ・地域に出かけ、その生活や行事などに興味や関心をもつ。	・自然に触れて遊ぶ中で、大きさや形の違いに気付き、美しさや不思議さを感じる。 ・様々な物の性質や仕組みに興味をもって遊び取り入れる。 ・生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。 ・園全体や道具に興味をもつ。自分なりに比べたり、関連付けたりし、試したり工夫したりして遊ぶ。 ・身近な物や道具に興味をもつ。 ・生活の中で、地域社会の伝統的な文化に親しむ。	・生命の尊さに気付き、いたわり、大切にしたりする。 ・失敗しても粘り強く取り組み、経験や知識と照らし合わせながら試行錯誤して工夫する。 ・数量や図形、標識や文字などを自分の生活に取り入れようとする。 ・様々な国や国旗に関心をもち、親しむ。 ・身近な地域や世界、過去や未来に興味をもって、自分にできることを考え、かかわろうとする。 ・公共の施設など地域資源を活用し、豊かな生活体験をする。		
	言葉	・音や形、色、手触りに気付き、感覚の働きを豊かにする。 ・保育者と一緒に様々な色や形のものを絵本などを見る。 ・保育者のあややい遊びに機嫌よく応じ、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。 ・様々なものに五感を通してかかわる。 ・玩具や身の回りのものや、つまむ、つかむ、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 ・身の回りの物や自分の体に興味をもち、見たり触れたりなどめりして遊ぶ。 ・引っ張る、取り出す、打ちつける、たたくなどの興味や好奇心をもった遊びを繰り返し楽しむ。	・伝えるための言葉、やりたいことのための言葉、遊びや生活の中で必要な言葉を使うようになる。 ・簡単な言葉を使ってごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者の言葉を聞こうとする。 ・自分から挨拶をしたり、覚えた言葉を使って話したりする。□ ・保育者の仲立ちにより、言葉でやり取りする喜びを経験する。 ・絵本や紙芝居など、簡単な言葉や繰り返し表現をしたりして遊ぶ。	・自分が経験したことや感じたこと、思ったことなどを喜んで話す。 ・したいこと、してほいたいことを言葉で表現したり、わからないことを尋ねたりする。 ・保育者や友だちが話している内容に興味や関心をもち、聞こうとする。 ・生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。 ・絵本や紙芝居などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。	・自分が知っていることや経験したことを、相手に分かるように話そうとする。 ・自分の思ったことを言葉にして伝え、相手の言葉も聞いて理解する。 ・気持ちよく考えを言葉で伝え、抽象的な言葉やふくむ多様な言葉を使う便利さ、面白さを知る。 ・いろいろな体験をしたり、絵本などに親しむことを通じてイメージや言葉を豊かにする。		
表現	・様々な素材に触れ、その音や形、色、手触り、動き、味、香りなどに触れて楽しむ。 ・音やリズム、それに合わせた体の動きを楽しむ。 ・歌や簡単な手遊びを楽しむ。 ・表情や動き、全身を使って表現することを楽しむ。	・生活の中で様々な音、形、手触り、動きなどに触れ、気付いたり、感じたりする。 ・みんなと一緒に、音楽やリズム、それに合わせた体の動きを楽しむ。 ・様々な素材を使って自分なりの表現を楽しむ。 ・歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。 ・自分なりのイメージをもってごっこ遊びをしたり、何かになって動いたりして遊ぶ。 ・生活や遊びの中でのごっこ遊びを通して興味のあることを自分なりに表現する。	・生活の中で美しいものや心を動かすことができ事に触れ、イメージを豊かにする。 ・感動したことを保育者に喜んで伝える。 ・興味のあることや経験したことなどを様々な方法で表現する。 ・様々な素材や道具を使い、かいたりついたりして遊ぶ。 ・音楽に合わせて体を動かしたり、歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりすることを楽しむ。	・遊びに必要なものをかいたり、つくったりすることを楽しみ、使ったり飾ったりする。 ・表現を豊かにするために、どのような工夫ができるのかを考える。 ・繰り返し練習が必要な楽器や歌などにも粘り強く取り組み、よさを追求する。 ・工夫をつくり、描いたりしたものを、地域の人々など、多くの人に知ってもらおう。			

重点的に取り組む教育・保育

長時間保育(なかよしタイム)	地域の子育て家庭への支援	家庭との連携・保護者支援	地域との連携(地域支援)	小学校との連携	大学との連携
ゆったりとしたくらしを基礎として、一人一人がやりたい活動に取り組み、多様な人とならがることを通じて、教育時間での学びの好循環を目指す。 くらしのくらしのくらしの中で、明日へと向かう力を蓄えようとすると、異年齢集団のくらしの中で自分の役割を果たすことで自信をつけ、主体的に取り組む力を育む。 くらしのくらしのくらしを継続することで、遊びを広げたり深めたりし、それを再び教育時間に返していくことで相乗効果を生む。時に、次の日の遊びの活躍者になるきっかけとなる。 くらしのくらしのくらしの子どもの担任以外の保育者とかかわりを広げて深めることで、教育時間においてもクラスを超えて多様な仲間や保育者とかかわる楽しさをし知り、協同する力を育む。	様々な食品や調理形態に慣れ、自分で食べたい気持ちや意欲をもって、自分で食べられるようになる。 ・未就園児クラス「すくすくくらぶ(べいばい/めいばい/わかば)」の実施 / 未就園児園庭開放(週1回) ・妊婦と家族、パートナー対象「カラムベビー フェア」の実施	保護者の自尊感を尊重し、保護者が子どもを肯定的にみることでできるような動きかけ、子どもの成長と一緒に喜び、保護者が思いを受けとめ、自己決定を尊重する。子どもと自分の成長を確認して自信をもち、次のステップへ進めるように援助していく。保護者同士の関係づくりも大切にする。 / 生活調査票等により家庭での生活の様子を知り、子どもにかかわるようになる。 / 園だより / クラスだより / 保護だより / 保育参観 / クラス懇談会 / 個人懇談 / 給食試食会 / 保護者アンケート / 園長による誕生日のバスデトーク / ICT活用(家庭との連絡アプリによる園児の登降園管理、及び保護者への手紙配信、身体測定などの個人記録配信) / 在園児の保護者の子育て支援(預かり保育実施、奈良市より園巡回、園訪問、スクールカウンセラーによる相談、ホームページに写真を掲載、関係機関との連携(市町村子ども福祉部局、療育施設 他))	地域の人材や資源を積極的に活用すると共に、地域に開かれた園づくりに努める ・飛鳥地区との連携 / 未就園児園庭開放(週1回) ・世界遺産学習(東大寺大仏さまのお話と遠足) ・鹿苑の庭に「どんぐり」を届ける / 外部講師によるお話の会(絵本・紙芝居の読み聞かせ) / 大学生との交流 / 大学施設の活用	子どもにとってめらかな小学校生活への移行ができるよう連携をはかる。 ・幼小連絡委員会 / 小学校教諭による保育参観 ・こども園教員による授業参観 / 教職員の合同研修会 ・小学校教諭による保護者への話(小学校生活について) ・年長児の小学校体験、授業参観	大学附属として、保育、研究、教育実習等、連携することで、子どもの経験を豊かにすることや、保育の質の向上に努める。 ・教育実習 ・大学授業において、保育参観を受け入れたり、保育についての話をする。保育環境を見せる。授業の中での子どもと触れ合い。 ・卒論観察、インタビュー等の受け入れ ・研究
保健・衛生管理	安全対策・事故防止	インクルーシブ保育	ICTの活用	職員員の資質向上	自己評価
・健康観察・欠席状況確認・感染症サーベイランス報告・アレルギー及び既往歴の把握対応・感染症予防対策・食中毒予防対策・砂場の掘り起こし・消毒(月1回) / 各保育室救急箱薬品点検・手洗い場・トイレなど衛生点検・室内外の整理整備、清掃・害虫駆除 / 水遊び・プール遊び時の救急体制と健康管理・水質管理 / 熱中症予防(熱中症計)・水分補給(適宜声掛け) / 身体測定(隔月)・健康診断の実施と事後措置・視力検査及び事後措置 / 新入園児健康診断 / 就学時健康診断後の健康相談 / うがい・手洗いの励行 / 換気の励行 / かせ・インフルエンザ等罹患患者把握 / 養護教諭による保健指導 / 学校薬剤師による検査(飲料水水質/プール水質/照度・空気・騒音・ダニ) / 午睡時の呼吸、表情確認	安全に過ごすための環境づくりに配慮し、子どもたちが自分の身を守る力を育てる。 ・毎月避難訓練(火災、地震、不審者対応)の実施 ・飛鳥地区との連携(あすか安全ネットワーク・あすか校区少年指導者協議会)、飛鳥地区一斉降園 / 施設内外の設備、用具等の清掃 ・子どもや保護者への交通安全指導・生活安全指導 / 施設内外の設備、用具等の安全管理及び自主点検 / 災害時の引き渡し訓練の実施 ・養護教諭による健康、安全の指導 / 遊具設置業者による遊具安全点検	子どもの国籍や宗教、障がいのある無ない関係なく、子どもを受け入れて一緒に過ごす。 ・関係機関と連携を図りながら個別の支援を行う。 ・一人一人の発達に応じた個別の指導計画を作成し、その子にふさわしい園生活を送ることができるよう支援する。 ・教職員間で連携し、一人一人の子どもの個性を共理解し、その子に合った支援を模索する。	ICTを活用(子どもの効果的な学びへつなげるため/保護者支援のため/保育者の業務改善) ・校務支援システムを活用 ・各保育室に大型プロジェクトを設置し、活用。日々の保育の中でクラスで共有したい情報を、写真、タブレットを用いての絵や文字、動画等でスクリーンに映して共有する。 ・写真、動画を撮影し、記録する。	キャリアステージに合わせた個々の学び、同僚性を基盤とした協同的な学びが得意になる体制や意識を形成する。 ・公開研究会での保育公開、参加者との討議 / フォトチャット研修会を外部機関との依頼で実施 / 他園の保育参観、事例収集などを行う研修 ・研修会への参加 / 園内研修 / 自己評価 / 日常的に子どもの姿や保育の写真を撮影し、記録する / 期ごとに保育を振り返り、指導計画にいかす	保育の構造および質に関して、省察を行い、改善を行う。 ・基本理念や教育・保育目標・全体的な計画・事業計画の策定と公開 / 年間計画の作成と評価 / 保護者アンケート(毎年)の実施 / 全体的な計画の明示 / 保育者等の評価(自己評価チェックシートによる自己評価) / 保育内容等の評価